

**Provision of acute renal replacement therapy, using three separate modalities, in critically ill patients during the COVID-19 pandemic.
An after action review from a UK tertiary critical care centre**

Fisher R et al.

J Crit Care 2021;62:190–196.

DOI:10.1016/j.jcrc.2020.12.023

全文 URL: <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7837302/pdf/main.pdf>

**COVID-19 パンデミック時の重症患者の急性腎障害に対する 3 つの腎代替療法
(持続的血液濾過透析、腹膜透析、血液透析) の提供**

著者らは英国の 3 次救急単施設において、COVID-19 で集中治療室 (ICU) に入室した患者の急性腎障害 (AKI) の発生率を記述した。また COVID-19 パンデミック時の医療需要に応じて、これらの AKI 併発患者に提供された 3 つの腎代替療法 (持続的血液濾過透析、腹膜透析、間欠的血液透析) についてもレトロスペクティブに詳述している。

末期腎不全の既往がなく ICU に入室した COVID-19 患者 136 名のうち、108 名 (79.4%) が AKI を発症した。AKI 併発 COVID-19 患者の 63% が何らかの腎代替療法 (RRT) を受けた。COVID-19 パンデミックによる医療供給体制の逼迫のため、RRT の選択肢は、持続的血液濾過透析 (CHDF) 単独から、腹膜透析 (PD)、間欠的血液透析 (HD) の施行に拡大された。その結果、研究期間中 (2020 年 3 月 10 日から 5 月 10 日の 3 か月間) で、ICU 内で RRT として行われた CHDF の割合は 100% から 39% に低下した。代わりに 15 名の患者が PD 単独、19 名が PD と補足的な CHDF の併用、2 名が PD と少なくとも 1 回の HD 併用で治療された。また、15 名の患者に対して計 82 回の HD が単独で施行された。PD 施行における腹膜炎などの重大な有害事象は認めなかった。また、HD 施行においても、HD 中断に至る著明な低血圧 1 件、回路凝固 7 件 (HD 施行 82 回中) 以外の重大な有害事象はみられなかった。

要約作成者のコメント :

今回紹介した論文で著者らは、COVID-19 パンデミックに伴い医療資源が逼迫した際には、COVID-19 に続発した AKI 患者に対する RRT の選択肢として、PD と HD は CHDF への依存度を減らすために安全に施行できると思われた、と結論しています。我が国でも COVID-19 感染拡大の第 4 波が到来し、3 回目の緊急事態宣言が関西圏や東京などで発出され、重症患者数の増加に伴う医療現場の逼迫が再び現実のものとなっており、参考になる文献と考え紹介致しました。

要約作成者 : 昭昭和大学 統括研究推進センター /
医学部内科学講座腎臓内科学部門

長谷川 毅